

令和 2年 2月20日

小野市議会議長 川名善三 様

総務文教常任委員会
委員長 岡嶋正昭 ⑩

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和 2年 2月 4日 (火) ～令和 2年 2月 6日 (木)

2 視察メンバー

岡嶋正昭委員長 平田真実副委員長 松永美由紀議員 喜始真吾議員
河島三奈議員 小林千津子議員 河島信行議員 川名善三議長 以上8名

3 視察先及び調査内容

- (1) 山口県防府市 (人口：約11万6千人、面積：189.37K㎡)
防災対策の取組について(自主防災組織の活性化等)
防府市役所：山口県防府市寿町7-1
- (2) 福岡県久留米市 (人口：約30万5千人、面積：229.96K㎡)
セーフコミュニティ事業について
久留米市役所：福岡県久留米市城南町15-3
- (3) 大分県豊後大野市 (人口：約3万5千人、面積：603.14K㎡)
読書活動推進計画における取組について
豊後大野市役所：大分県豊後大野市三重町市場1200

4 調査結果

【第1日】

山口県防府市

人口：115,873人 面積：189.37Km²

≪視察項目≫

防災対策の取組について(自主防災組織の活性化等)

≪視察内容≫

防府市における近年の災害状況

H21年7月21日 梅雨前線 中国・九州北部豪雨

死者19名、重軽傷者35名、家屋全壊30棟、床下浸水1,012棟

○降雨状況[原因：梅雨前線の停滞・活発化]

降雨量 331.5mm(19日0時～21日24時の3日間)

日降水量 275mm(過去1位：概ね150年に一度)

日最大1時間降水量 72.5mm(過去1位：概ね110年に一度)

H.16年9月 7日 台風 重軽傷者20名、家屋全壊3棟等

H.11年9月24日 暴風・高潮(台風18号) 重軽傷者14名、家屋全壊49棟等

H. 3年9月27日 暴風・高潮(台風19号) 死者1名、重軽傷者32名等

S.26年7月10日 佐波川洪水(梅雨前線) 死者11名他

S.25年7月21日 戎町大火(台風の強風) 96世帯74棟17,490m²焼失

T. 7年7月 佐波川洪水(台風)最大規模 死者6名、流失家屋91戸他

防災対策の充実

○基本方針

市民の生命、財産などを守るため、常日頃から、地域や学校での講習会や防災訓練等を実施し、防災に関する意識の高揚を図るとともに、災害時における気象等の情報を迅速かつ的確に収集、伝達の出来る体制の構築に努めます。

《詳細施策ごとの主な取組》

① 防災意識の高揚

小・中学校での防災出前授業や防災講演会等の実施。防災リーフレットの配布。

② 防災体制の強化

職員体制の強化。防災倉庫への備蓄物資の充実。職員行動マニュアルの策定。

③ 地域防災力の強化

防災資機材等の購入に係る支援。自主防災リーダー研修の実施。防災士養成講座及び防災士フォローアップ研修の実施。防災マップ・ハザードマップの作成・全戸配布。

⇒リーダーの職能・熱意は、地域の防災力向上に直結

防災士養成(H25年38名 ⇒R1年354名、うち女性21名が誕生)

《防災意識の高揚&地域防災力の強化》

- ・ 広報誌、防災ファイルの全戸配布他

自主防災組織とは

地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る。という意識に基づき自主的に結成する防災組織をいう。

防府市認定要件

・ 地域住民が組織した自治会単位、又は、近隣自治体の合同体であって、当該自治会等の規約等に「自主防災活動に関すること」と明記され、かつ、災害時の連絡網の整備がされている組織。

◇認定されると自主防災組織育成事業補助金制度の対象となる。

《所 感》

防府市においては、平成21年7月に梅雨前線による大規模な災害が発生。(過去においても多くの自然災害が発生。甚大な被害をもたらされている。)

想定外の豪雨(150年に一度、110年に一度といった豪雨被害が発生している。)といえども計り知れない被害が発生している。

そこで、少しでも被害を和らげるために「自助」「共助」の大切さから日ごろの備えや日々の取組により、少しでも災害を少なくしようとの取組である。防災対策の取組の充実・関係資機材の設置・地域防災力の充実等々の取組である。

防府市民防災の日(7月21日)に、各地域で啓発イベントの実施。(特別講演会、防災兵庫の募集・表彰、展示・体験型イベントなど)

これらすべて毎年各地域での訓練の実施や防災担当相の養成など、多くの取組がなされている。

当市においても毎年小学校区において防災訓練が実施されているが、これらを継続し、一人でも多くの受講者・体験者を増やし養成していくことが必要であり、日ごろの訓練の重要性を学んだ。

【第2日】

福岡県久留米市

人口：305,311人

面積：229.96Km²

≪視察項目≫

セーフコミュニティ事業について

みんなでやろうよ！

安全安心まちづくり

～セーフコミュニティ～

≪視察内容≫

教えて！ セーフコミュニティ

・ケガや事故は偶然の結果ではなく、予防できるという考え方。

⇒ どうして予防できるの？ いろいろなデータを分析し、予防策を考えているから。

・くるめっこ みんなで連携してやるんです。

⇒ 誰がやるの？ 地域の皆さん・家庭・市役所・学校などみんなで一緒に
取り組んでいく。 ⇒ 安全安心の向上

○セーフコミュニティに取り組むに至った背景

① 市民との協働が見えるまち

② みんなで安全に取り組むまち

↓

市政運営方針(中期ビジョン)

⇒ 市民一人ひとりを大切にする市政、安心、活力に満ちた久留米
協働によるまちづくり

地方分権・地域主権の進展

市民ニーズの多様化・高度化

自治意識の向上と市民活動の活発化等々

○社会的背景

人口減少と人口構造変化

事故、犯罪・暴力事件への不安

コミュニティ意識の変容

東日本大震災などの大規模災害

↓

安全・安心な市民生活の確保

↓ 協働のまちづくり

セーフコミュニティ推進協議会

会長：久留米市長

委員：57団体63名

全市的な連絡調整

⇒ 日本セーフコミュニティ推進機構の支援

○久留米市のけがや事故の状況

不慮の事故等における年齢層別死因順位(人口動態統計、H20～24年の5年間の累計)
自殺、交通事故、転落・転倒、溺死・溺水、等々。

○セーフコミュニティの重点取組分野・項目

- ① 交通安全 高齢者の交通事故防止、自転車事故の防止
- ② 子どもの安全 児童虐待の防止、学校の安全
児童虐待防止対策委員会の取組
- ③ 高齢者の安全 転倒防止、高齢者虐待の防止
高齢者の安全対策委員会 高齢者の転倒、虐待への対策
- ④ 犯罪・暴力の予防 犯罪の防止・防犯力の向上、DV防止・早期発見
防犯対策委員会 DV防止対策委員会
- ⑤ 自殺予防 自殺・うつ病の予防
- ⑥ 防災 地域防災力の向上 防災対策委員会

《所 感》

久留米市における「セーフコミュニティ事業」は、人口減少と人口構造変化、事故・犯罪・暴力事件への不安、コミュニティ意識の変容、東日本大震災などの大規模災害等、これらに対応すべく市民の安全・安心な市民生活の確保に向けての取組である。

久留米市長を会長に、57団体63名の委員で構成し、それぞれの重点取組分野に対し、重点取組項目を整理し、それぞれの分野ごとでの取組・対策等々を行い、平成25年度から各分野で大きく成果が表れている。

セーフコミュニティの紹介・取組の啓発、市民の参加の啓発、広報その他での紹介等を通じてさらなる活動へ。これからは認知度の向上、取組の裾野拡大、連携・協働の新たな仕組みづくりへと進化していくことが期待される。小野市においてもこれらの取組を参考に、小野市にとってのコミュニティの再構築の点で、更なる飛躍を求めた取組を検討すべき機会になればと感じたところです。

【第3日】

大分県豊後大野市

人口 35,377人 面積 603.14Km²

≪視察項目≫

読書活動推進計画における取組について

≪視察内容≫

「豊後大野っ子」読書活動推進計画の策定にあたって

1. 計画の趣旨

人は多くの出会いや体験により、人として成長していく。人との出会いや体験と同様に本との出会いは大変貴重なものである。

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるように、積極的にそのための環境の整備を推進する必要がある。

2. 計画の目標と基本方針

第一次計画に基づき、子どもの読書をめぐる環境の整備を子どもの成長に応じて各機関が連携して推進してきた。

現代の情報化社会の著しい変化などを踏まえ、子どもが生涯にわたって本に親しむ習慣づくりを目標に新たに第二次計画を策定し、次の読書活動を推進する。

① 計画の目標

「豊後大野っ子」が生涯にわたって本に親しむ習慣づくり

計画の基本方針

「生涯にわたって本に親しむ習慣づくり」を目指す。

② 計画の位置づけ

「子どもの読書活動推進に関する法律」に基づき、市における子供の読書活動の推進に関する施策についての計画として策定する。

③ 計画の期間

本計画の期間は、平成30年度から平成34年度までの5年間とし、周期的な見直しを行う。

「豊後大野っ子」の読書活動の現状と課題

1. 市内の子どもの読書活動

保護者の意識調査では、「お子さんにとって読書活動は重要だと思う」が98.4%
お子さんに読み聞かせをしたことがありますか？ が90.8%

2. 学校の読書活動における現状

・小学校について

朝読書のほかに年に数回「読書月間」を設定し、本に親しむ機会の工夫。

課題

読書活動のための時間の確保。司書が2校を兼務している学校がある。

・中学校について

図書館活用教育全体計画及び年間指導計画を作成

3. 学校図書館における現状

学校図書館(学校司書部会)では、児童生徒が興味を持ち幅広い分野の本を手にとってくれるような選書、読書活動の工夫、館内での過ごし方の指導など、図書館内の環境整備を行っている。

小学校(一人あたり平均貸出冊数)156.9冊(目標値+40.9冊)

中学校(一人あたり平均貸出冊数)25.3冊(目標値-6.3冊)

4. こども園・保育園における現状

読み聞かせを通じて、子ども感性を豊かにし、想像力を育てる。

5. 幼稚園における現状

子どもが「絵本だい好き!」と感じられるよう、絵本に親しむ活動。

6. 保健・福祉事業における現状

こんにちは赤ちゃん事業(乳児家庭全戸訪問事業)

7. 児童館における現状

見やすく手の届きやすい場所に本棚を配置。

8. 市図書館における現状

蔵書は72,000冊、内児童書は27,000冊。

9. 公民館図書室における現状

市内6公民館図書室ある。社会教育や生涯学習資料等を配備。

10. 地域、家庭における現状

地域では、各学校、施設、図書館等でボランティアによる読み聞かせ活動を実施。

《所 感》

豊後大野市では、市内小学校11校、中学校7校に司書11~12名が配属されている。これら司書は市立図書館は勿論、各学校図書室へも配属され、それぞれ子どもたちが“本”に親しめる環境づくりに寄与されている。ただ、ハード的に図書館が旧三重町の図書館であるため手狭であり、蔵書の状況が大変厳しいようだが、新図書館を建設中であり、この先、図書における環境が整備され、なお一層豊後大野市の子どもたちが本に親しめる大きな機会づくりに貢献するものと思われる。

小野市では東北大学の川島隆太教授が言われるとおり、スマホが与える影響に対し、幼い頃より積極的に活字に親しむ必要性を学び、学習にも取り入れられているところである。

また、昨年12月に小野市立図書館がリニューアルオープンし、より快適な読書環境が構築され、幼児から高齢者までが一堂に活用できる図書空間ができ、更なる本への関心が深まっていくものと期待している。

令和 2年 2月 19日

小野市議会議長 川名善三 様

総務文教常任委員会

平田 真実 ⑨

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和2年2月4日(火)～令和2年2月6日(木)

2 視察メンバー

岡嶋正昭委員長、松永美由紀委員、喜始真吾委員、河島三奈委員、小林千津子委員、河島信行委員、川名善三委員、平田真実

3 視察先及び調査内容

(1) 山口県防府市(人口:約 11万6千人、面積:189.37 Km²)

防災対策の取組について

地域防災力の強化として、防災リーダー研修や、防災士養成講座など様々な取り組みを進めている防府市の防災対策について

(2) 福岡県久留米市(人口:約 30万5千人、面積:229.96 Km²)

セーフコミュニティ事業について

WHOが推奨する安全・安心なまちづくりの国際認証制度であるセーフコミュニティの久留米市での取り組みについて

(3) 大分県豊後大野市(人口:約 3万5千人、面積:603.14 Km²)

読書活動推進計画における取組について

第2次「豊後大野っ子」読書活動推進計画の概要と、市内での取り組みについて

4 調査結果

【第1日】

山口県防府市

人口 約 11万6千人 面積 189.37 Km²

《視察項目》

防災対策の取組について

《視察内容》

山口県防府市は、山口県瀬戸内海のほぼ中央に位置する、県内最大の平野部である。また、市内に一級河川佐波川が流れ、地質は花崗岩が風化した真砂土であるという特徴がある。

【近年の防府市での被災状況】

中でも、平成21年7月の中国・九州北部豪雨で、災害関連死を含めて死者19名、負傷者35名の被害、全壊家屋30棟、半壊家屋61棟、床上浸水114件、床下浸水1012件、国道262号線は9月6日まで通行止めになるという被害を受けた。原因は梅雨前線の停滞・活発化で、19日0時～21日24時の3日間の内、331.5mmの降雨量、日降水量は275mmで過去1位の降水記録であった。

防府市における近年の災害

時期	事象(要因)	被害
1918年(大正7年)7月	佐波川洪水(台風)最大規模	死者6名、流潰家屋91戸、浸水家屋3,451戸
1941年(昭和16年)6月	佐波川洪水(梅雨前線)	死者不明、流潰家屋3戸、浸水家屋150戸
1950年(昭和25年)7月21日	戎町大火(台風の強風)	96世帯74棟 17,490㎡ 焼失
1951年(昭和26年)7月10日	佐波川洪水(梅雨前線)	死者11名、流潰家屋1,083戸、浸水家屋3,397戸
1979年(昭和54年)7月2日	豪雨	家屋床下浸水321戸
1991年(平成3年)9月27日	暴風・高潮(台風19号)	死者1名(県合計6名)、重軽傷32名、家屋全壊6棟、一部損壊1,090棟
1993年(平成5年)8月2日	土砂災害(豪雨)	死者3名 家屋の全壊3棟、床下浸水1,500棟
1999年(平成11年)9月24日	暴風・高潮(台風18号)	(県内で3名死亡)重軽傷者14名、家屋全壊49棟、一部破損1,410棟 床上浸水387棟
2004年(平成16年)9月7日	台風	重軽傷者20名 家屋全壊3棟 一部破損1,809棟 床下浸水22棟
2009年(平成21年)7月21日	中国・九州北部豪雨による土砂災害(梅雨前線)	死者19名(県合計22名)、重軽傷者35名 家屋全壊30棟 床下浸水1,012棟

*佐波川洪水の被害は、他市町を含む場合がある。

これらの経験を踏まえ、防府市では防災対策の充実をより強化することとなる。

<p>防府市総合計画</p> <p>防災対策の充実</p> <p>●基本方針</p> <p>市民の生命、財産などを守るため、常日頃から、地域や学校での講習会や防災訓練等を実施し、防災に関する意識の高揚を図るとともに、災害時における気象等の情報を迅速かつ的確に収集、伝達のできる体制の構築に努めます。</p> <p>平成21年7月の豪雨災害をはじめ、近年多発する災害を教訓とし、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「自助」及び「共助」の重要性から、自主防災組織の強化や活動支援に積極的に取り組み、市民と一体となった地域防災力の強化に努めます。</p>
--

詳細施策	主な取組
防災意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ◆小・中学校での防災出前授業や防災講演会等の実施 ◆防災関連機関や地域住民と協働した市総合防災訓練の実施 ◆防災リーフレットの全部改定・全戸配布 ◆地域での避難場所や避難経路選定のためのWS実施
防災体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ◆職員体制等の強化 ◆市民や要配慮者利用施設への緊急告知防災ラジオの配布 ◆防災倉庫への備蓄物資の充実 ◆業務継続計画・職員行動マニュアルの策定
地域防災力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ◆自主防災組織が行う活動及び防災資機材等の購入に係る支援 ◆自治会又は自主防災組織の代表者等を対象とした自主防災リーダー研修の実施 ◆防災士養成講座及び防災士フォローアップ研修の実施 ◆防災マップ・ハザードマップの作成・全戸配布

平成21年の中国・九州北部豪雨災害の教訓を風化させないため、7月21日を条例により「防府市 市民防災の日」とし、毎年啓発イベントを実施している。

地域防災力の強化(人材の育成)

防災リーダー研修	地域防災の中核となるリーダーを養成。自主防災組織または自治会の代表者、防災部長、防災士等、「基礎編」「応用編」「実践編」に日程を分けて実施している。
防災士養成講座	地域防災力の向上につなげるため、公費で防災士を養成している。受講には自治会長からの推薦が必要である。
防災士フォローアップ研修	防災士等連絡協議会もあり、自治会や地域の防災力向上を促進するため、スキルアップを図っている。

自主防災組織について

防府市では、地域住民が組織した自治会単位、または近隣自治体の合同体であって、当該自治会等の規約等に「自主防災活動に関すること」と明記され、かつ、災害時の連絡網の整備がされている組織、聴覚障害者災害対策協議会等の福祉団体であって、当該福祉団体の規約等に「自主防災活動に関すること」と明記され、かつ、災害時の連絡網の整備がされている組織を自主防災組織の認定要件としている。

⇒防府市内の自治会数は254、内196の自治会で自主防災組織が結成している。

自主防災組織の活動

- ・通学路、避難経路等の危険個所の確認、マップ作り
- ・防災研修会、講話等の企画、実施
- ・防災訓練等の実施(DIG,HUG,実動訓練)、情報伝達避難訓練、非常食の炊き出し、救急・救命訓練、消火訓練、避難行動要支援者の避難訓練等
- ・避難所運営訓練
- ・総合防災訓練への参加
- ・避難行動要支援者の支援体制構築
- ・率先避難への取組

自主防災組織等支援協力員について

自治会・自主防災組織の「防災に関する活動」や「自主防災組織結成」を支援するため、自主防災組織等支援協力員の設置も行っている。

⇒自主防災活動に携わった経験を有し、自主防災組織及び防災について見識があると認められる者で、指導力及び行動力に富み、かつ人格円満な者。委嘱期間は2年。自主防災組織等の体制づくりに係る防災訓練・研修・講習会等、防災活動に関する助言・指導、自主防災組織等に関する活動事例等の紹介等も行い、現在15名が活動している。

《所感》

防府市では、地域防災の中核となるリーダーを養成するために、自治会の代表者、防災部長、防災士等が実践的な知識や技術を習得できるよう、基礎編・応用編・実践編と3編に分けられた防災リーダー研修の体制を整えている。地域防災力の向上に繋げるため、自治会長から推薦された方が公費で防災士の資格を取得できるようになっているが、防災士の資格取得は意識づけが第一の目的であり、あくまでも活動等を強制するものではなかった。防災活動は、防災

士の資格を取得してすぐに地域で何か活動ができるような簡単な活動ではないし、自治会長や防災リーダーの防災意識の大きさにも関係してくる。そのため、地域防災の中核となるリーダーを養成する防災リーダー研修が重要な取り組みになるものと考え。活動が盛んな自主防災組織では、自分たちで災害時避難行動要支援者の支援体制構築に取り組まれている。その組織では、自治会長、防災部長、支援者等有志、民生委員による避難行動要支援者の個別支援要領の検討をしておられるとのことで、個人情報取り扱いに関する研修も受講されて臨まれており、防府市の住民や地域それぞれの防災意識向上が少しずつ積みあがってきている過程を学ばせて頂けた。小野市においても、様々な知識や経験を持った防災意識の高い住民が、地域でその力を発揮し、地域防災力向上の一助を担って頂けるように支援する必要がある。防災士と地域を結びつけ、地域で防災活動がよりスムーズに始められるような取り組みも必要であるが、やはり自治会長を始めとして、住民ひとりひとりが防災について意識を高め、防災活動の必要性を認識する必要があると考える。

【第2日】

福岡県久留米市

人口 約 30 万 5 千人 面積 229.96 Km²

《視察項目》

セーフコミュニティ事業について

《視察内容》

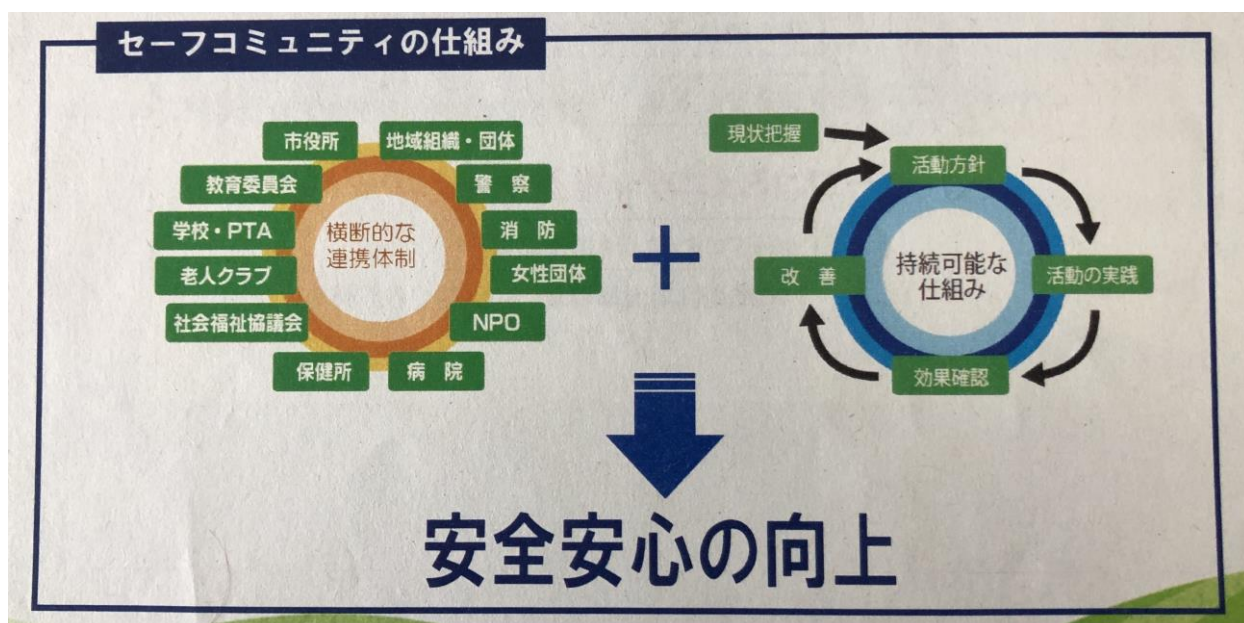
【セーフコミュニティとは】

怪我や事故は偶然の結果ではなく、予防できるという考え方。

怪我をした時に、「どうして怪我をしたのだろうか?」「同じような怪我をしないためには、どうしたらいいだろうか?」と、考えること、それが「セーフコミュニティ」である。

統計データやアンケートの分析結果を使って、怪我や事故の原因を追究し、予防策を考え取り組んでいる。

久留米市では、地域の皆さん・家庭・市役所・学校・医療機関・警察・消防など、連携して取り組んでいる。



久留米市では、市民との協働が見えるまち、みんなで安全に取り組むまちを市政運営方針に取り入れ、市民一人ひとりを大切にする市政、そして安心、活力に満ちた久留米を目指している。地域のみんなで連携・協力し、安全・安心な市民生活の確保を実現するため、セーフコミュニティに取り組まれた。

久留米市セーフコミュニティ推進の骨格(6分野10項目8対策委員会42施策)

●交通安全

- ・高齢者の交通事故防止……交通安全対策委員会
- ・自転車事故の防止……交通安全対策委員会
 - 運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施
 - 明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施
 - 安全安心マップの作成
 - 交通安全教室の実施

●子どもの安全

- ・児童虐待の防止……児童虐待防止対策委員会
 - 新生児訪問事業の地域連携
 - 赤ちゃんふれあい体験事業
 - 児童虐待防止啓発事業

・学校の安全……………安全対策委員会

校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取り組みの実施

校舎内で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取り組みの実施

いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施

火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施

交通安全教育の実施

地域・保護者と連携した交通指導の実施

防犯教育の実施

地域・保護者と連携した防犯の取組の実施

●高齢者の安全

・転倒予防……………高齢者の安全対策委員会

・高齢者虐待の防止……………高齢者の安全対策委員会

転倒予防に関する普及・啓発

転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防

虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催

介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修

地域で高齢者を見守るネットワークの構築

●犯罪・暴力の予防

・犯罪の防止、防犯力の向上・防犯対策委員会

自転車ツーロックの推進

青パト活動団体の拡大・連携強化

安全・安心感を高めるための地域環境の整備

暴力団壊滅市民総決起大会等の開催

児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施

犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発

・DV防止、早期発見……………DV防止対策委員会

男女共同参画・DV防止に関する啓発の充実

教育現場等における予防教育の充実

パープルリボンキャンペーンの実施

医療関係者に対する研修の強化

子どもに関わる業務に携わる職務関係者に対する研修の充実

●自殺予防

・自殺、うつ病の予防……………自殺予防対策委員会

ゲートキーパー研修

かかりつけ医と精神科医の連携強化

自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施

民間団体と協働した相談の実施

生活困窮者からの相談支援

・防災……………防災対策委員会

定期的な防災研修・訓練・啓発の実施

防災に精通しているリーダーの育成

避難行動要支援者名簿の登録促進

避難行動要支援者個別支援計画の充実

地域の避難計画を作成

上記の委員会の他に、外傷等動向調査委員会を定期的に開催し、怪我や事故のデータ収集・検証、取り組みの効果や影響等を測定・評価している。

関連予算

(単位:千円)

	2015年	2016年	2017年	2018年 (再認証取得)	2019年
セーフコミュニティ推進事業	6,970	5,868	12,786	13,924	6,118
セーフコミュニティの重点分野	258,611	289,214	492,327	419,080	383,483
関連事業	1,160,728	899,021	919,968	858,902	896,721
合計	1,426,309	1,194,103	1,425,081	1,291,906	1,286,322

《所感》

セーフコミュニティは、WHO が推奨する安全・安心なまちづくりの国際認証制度で、国際基準の安全・安心なまちづくりを推進することができる。国際基準の認証を取得することで、市民一体となって安全安心の取り組みができ、またイメージ UP に繋がるという点に大きなメリットがある。小野市においても、安全安心のまちを目指し様々な取組を行っているが、セーフコミュニティの理念である“予防”という概念を改めて検証に加えていくことで、さらに良い施策・事業となっていくと考える。久留米市での多岐に渡るセーフコミュニティの取り組みから、自殺防止対策として、かかりつけ医と精神科医の顔の見える連携も新たな協働として関係づくりがなされてい

た。心の悩みから身体症状が出ていることも多いという説明で、やはり原因を究明し、対策をとっていくというセーフコミュニティのその理念が、市民の安全安心に繋がっているものと確信したため、今後の委員会活動等に活かしていきたい。

【第3日】

大分県豊後大野市

人口 35,377 人 面積 603.14 Km²

≪視察項目≫

読書活動推進計画における取組について

≪視察内容≫

「豊後大野っ子」読書活動推進計画の目標

⇒「豊後大野っ子」が生涯にわたって本に親しむ習慣づくり

子どもの発達段階に応じた本との関わり方を周りの大人が十分考慮した上で働きかけを行い、多くの本や人とのふれあいの中でどくしょの楽しさについて気付かせ、子どもの自主的な読書活動を促進し、生涯にわたる読書活動につなげる。

基本方針1

子どもの読書活動の大切さや重要性についての啓発活動の推進

子どもと保護者や周囲の大人へ、読書活動の大切さや重要性について周知啓発を行い、地域全体で読書活動の推進を図る。

基本方針2

子どもの成長に応じて関係機関が連携した読書活動の推進

子どもの読書活動に関わる関係機関や団体、家庭等が、それぞれの役割を認識するとともに、関係機関同士が連携して情報交換や協働事業を行う中で、子どもの自主的な読書活動が楽しくより効果的にすすめられるように推進する。

豊後大野っ子の読書活動の現状

(小学校2年生、5年生、中学校2年生を対象に読書活動に関する調査)

	平成 25 年	平成 30 年
あなたは本を読むのが好きですか 「はい」	77.8%	83.3%
先月一か月間に本を何冊読みましたか 「0冊」	5.5%	3.7%
先月一か月間に本を何冊読みましたか 「4冊以上」	65%	79.2%
1週間に学校の図書館に何回行きましたか 「0回」	9.6%	9.5%
1週間に学校の図書館に何回行きましたか 「2、3回」	63%	58.4%
1週間に学校の図書館に何回行きましたか 「毎日」	19%	31.4%

小学校での具体的な取り組み

- ・がんばりカードの活用
- ・学校司書による支援、協力
- ・市内全小学校で小学生新聞を購入
- ・ボランティアによる読み聞かせ
- ・毎月図書だよりの発行 など

中学校での具体的な取り組み

- ・朝自習、放課後を活用した一斉読書
- ・図書館活用授業
- ・中学生が小学校に出向いて行う読み聞かせ など

《所感》

アンケート結果にあるように、1週間に学校の図書館に何回行ったかという問いに、「毎日」と回答した生徒が 31.4%に上昇しているのが、成果の現われであるように感じた。豊後大野市では、大野郡の時から学校司書を配置している。現在の課題として、学校司書が2校を兼務している学校があり、全校配置が望ましいという点も挙げられている。その点は、小野市の現状と明確な違いがあり、今後小野市でも充実していくべき点だと感じた。また、市立図書館では、3.5tトラックを改装した移動図書館「にじいろ号」で、月に8回、幼稚園6園・保育園(こども園)9園・小学校 10校を巡回している。子どもたちが楽しく本を手取るための取り組みが進められ

ており、身近に本がある環境づくりが実践されていた。小野市が推進している脳科学理論をベースにした16か年教育、小野市「夢と希望の教育」振興計画の中でも、読書週間の確立支援が挙げられており、子どもたちが今以上に本に親しみを持てるような取り組みが重要である。特に学校司書の配置については、委員会でも議論していくべき内容であると考え。



※豊後大野市のにじいろ号（豊後大野市のHPより）

令和2年2月17日

小野市議会議長 川名 善三 様

総務文教常任委員会 委員
松永美由紀 ⑩

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和2年2月4日（火）～令和2年2月6日（木）

2 視察メンバー

委員長 岡嶋正昭 副委員長 平田真実
委員 川名善三 小林千津子 河島信行 河島三奈 喜始真吾
松永美由紀

3 視察先及び調査内容

- (1) 山口県防府市（人口：約11万6千人、面積：189.37 Km²）
「防災対策の取組について」～自主防災組織の活性化～
- (2) 福岡県久留米市（人口：約30万5千人、面積：229.96 Km²）
「セーフコミュニティ事業について」
- (3) 大分県豊後大野市（人口：約3万5千人、面積：603.14 Km²）
「読書活動推進計画における取組について」

4 調査結果

【第1日】

山口県防府市（人口：約11万6千人 面積：189.37Km²）

≪視察項目≫

「防災対策の取組について」～自主防災組織の活性化～

≪視察内容≫

調査事項説明 「防災対策の取組について」（総務部防災危機管理課）

① 防災対策の充実

● 基本方針

- ・ 常日頃から、地域や学校での講習会や防災訓練等を実施し、防災に関する意識の高揚を図る。
- ・ 自主防災組織の強化や活動支援に積極的に取り組み、地域防災力の強化に努める

● 地域防災力の強化

- ・ 広報紙・防災ファイルの全戸配布
- ・ コミュニティFM局の活用
- ・ 防災出前講座（徳山工専との官学協働）実施
- ・ 防災リーダー養成・研修（対象 自主防災組織、自治会代表、防災士等）
- ・ 女性向け防災セミナー
- ・ 避難行動要支援者の支援対策構築
- ・ 自主防災組織の活動、及び防災資機材購入への支援



防災ラジオ



≪所感≫

- ① 平成21年7月の中国・九州北部豪雨により、防府市では、土石流、川の氾濫により甚大な被害に見舞われた。その災害を教訓とし、「自分たちの地域は自分で守る」という「自助」「共助」の意識が、地域防災力の強化への高揚に繋がっていると感じる。
- ② 災害時避難行動要支援者の支援体制については、個人情報観点から情報収集の難しさは想定されるが、自治会や隣保の自発的な取組により、本人同意のもとに支援を考える必要があると思う。

【第2日】

福岡県久留米市（人口：約30万5千人 面積：229.96Km²）

《視察項目》

「セーフコミュニティ事業について」

安全安心まちづくり ～セーフコミュニティ～

《視察内容》



セーフコミュニティ

国際認証都市 久留米

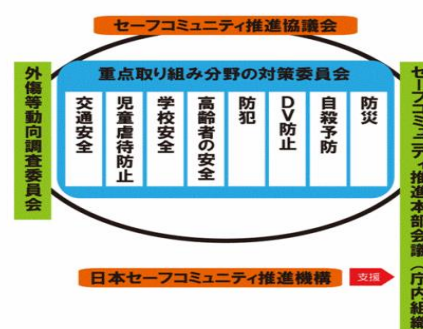
調査事項説明

- ① セーフコミュニティに取り組むに至った社会的背景
- 人口減少と人口構造変化
 - 事故、犯罪・暴力事件への不安
 - コミュニティ意識の変容
 - 東日本大震災などの大規模災害
- 【安全で安心な暮らしは市民共通の願い】

- ② 実現に向けて、行政をはじめ市民や様々な団体の連携が必要
- 協働のまちづくり⇒⇒セーフコミュニティ
(地域、家庭、市役所、学校、医療機関、警察、消防など)

【久留米市におけるセーフコミュニティの推進体制】

- ③ セーフコミュニティ推進協議会を設置、
重点取組分野の8対策委員会を統括
- 交通安全
 - 児童虐待防止
 - 学校安全
 - 高齢者の安全
 - 防犯
 - DV防止
 - 自殺予防
 - 防災



- ④ これまでの取り組みの成果
- 数字的效果
 - ・各分野において該当件数、人数が減少した。
 - 数字以外の効果
 - ・新たな協働による「顔の見える関係」づくり
 - ・毎月21日のセーフコミュニティ活動の広がり
 - ・企業や団体からの支援や取組への賛同

《所感》

- ①すべての分野の安全・安心を「セーフコミュニティ推進事業」と捉え、一体化した取組がなされている。先進的な例であると思う。
- ②印象的であったことは、「校区コミュニティ」が熱心に活動されていることである。市内46校区の地域性による温度差はあるものの、熱心な取組の校区の活動に倣う校区も増えている。取組の成果を棒グラフ等で表わし、分かりやすく市民に訴える手法は効果的である。

【第3日】

大分県豊後大野市（人口：約3万5千人 面積：603.14Km²）

≪視察項目≫

「読書活動推進計画における取組について」

≪視察内容≫

調査事項説明

①読書活動推進計画の目標

「豊後大野っこ」が生涯にわたって本に親しむ習慣づくり
計画の位置づけ

第3次豊後大野市総合教育計画における基本理念に基づく

期間

平成30年度から令和4年度までの5年間

②取り組みの現状

- 小学校において、児童が読書を楽しみ、読書の幅を広げるために適切な支援、環境整備を行っている。
- 「がんばりカード」を使用し、意欲的に本を読む工夫を行っている。
- 教科学習と関連させた活動を行っている。司書の支援を得て、国語科、社会科、及び総合的な「調べ学習」を進めている。
- 市内全小学校で、小学生新聞を購入、授業や宿題に活用している。
- 地域ボランティアや保護者による読み聞かせの実施

③取り組みの成果

- 学校図書館を利用する児童の増加
- 幼稚園、小学校、中学校の保護者への調査の結果、「子供にとって読書活動はとても重要」という回答が増え、保護者の読書活動に対する認識が高くなった。
- 移動図書館「にじいろ号」の活動
- 児童館、市図書館、公民館図書室等の充実に向けての環境整備

≪所 感≫

- ①幼稚園、小学校だけではなく、乳幼児期から本に触れるきっかけづくりとして、子育て支援課による「ブックスタート事業」（絵本のプレゼント）が行われていることに、この事業の根幹を見たような気がした。
- ②学校図書館司書の常駐、読み聞かせボランティアの活動等が、子供たちの読書意欲を高めている。
- ③移動図書館「にじいろ号」の巡回は、市図書館に出向くことのできない市民や子供

たちの読書意欲向上に効果的である。

- ④小さい時からの読書習慣は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身につける上で欠くことのできないものである。この理念を再認識させていただいた。



にじいろ号



にじいろ号巡回の様子

令和2年2月20日

小野市議会議長 川名 善三 様

総務文教常任委員会
喜始 真吾 印

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣について下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日

令和2年2月4日（火）～2月6日（木）

2 視察議員

喜始 真吾	岡嶋 正昭	平田 真実	河島 三奈
小林千津子	河島 信行	松永美由紀	川名 善三

3 視察先

山口県防府市役所
福岡県久留米市役所
大分県豊後大野市役所

4 内 容

防災対策の取り組み～自主防災組織の活性化～（防府市）
セーフコミュニティ事業について（久留米市）
読書活動推進計画につて（豊後大野市）

5 所 感

別紙のとおり

【第1日】

防災対策の取り組み ～自主防災組織の活性化

日 時：令和2年2月4日（水）13：30～

場 所：山口県防府市議会 第1委員会室

担当課：防府市防災危機管理課



防府市概況

市域面積 189.37km²

人 口 115,873人（令和元年末）

平均気温 15.6℃

降水量 1,637mm（年間）

山口県の瀬戸内海沿いのほぼ中央に位置し、南北に流れる1級河川佐波川流域に広がる防府平野は山口県最大の平野部である。近年の災害では死者6名、流潰家屋91戸、浸水家屋3451戸の被害があった1918年の佐波川洪水から2009年の梅雨前線による中国・九州北部豪雨による土砂災害まで10件を数えるが、特に2009年、平成21年7月21日の中国・九州北部豪雨では、延べ3日間の降雨量が331.5mm、日降水量が275mm（過去1位：おおむね150年に1度）最大10分間降雨量20.5mm（過去1位）、最大1時間降雨量72.5mm（過去1位：概ね110年に1度）を記録し、死者19名、負傷者35名、全壊家屋30棟、半壊家屋61棟、床上浸水114件、床下浸水1012件に及ぶ大災害となった。この年の10月に元消防職員、元自衛官を含む9人体制で危機管理課を設置して現在に至っている。

防災対策の充実

○基本方針

市民の生命、財産などを守るため、常日頃から地域や学校での講習会や防災訓練等を実施し、防災に関する意識の高揚を図るとともに、災害時における気象等の情報を迅速かつ的確に収集、伝達のできる体制の構築に努める。

近年多発する災害を教訓とし、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「自助」及び「共助」の重要性から、自主防災組織の強化や活動支援に積極的に取り組み、市民と一体となった地域防災力の強化に努める。

【施策ごとの主な取組】

①防災意識の高揚

- ・小・中学校での防災出前授業や防災講演会等の実施
- ・防災関係機関や地域住民と協働した市総合防災訓練の実施
- ・防災リーフレットの全部改定・全戸配布
- ・地域での避難場所や避難経路選定のためのワークショップの実施

②防災体制の強化

- ・職員体制等の強化
- ・市民や要配慮者利用施設への緊急告知防災ラジオの配布
- ・防災倉庫への備蓄物資の充実

- ・業務継続計画（BCP）・職員行動マニュアルの策定

③地域防災力の強化

- ・自主防災組織が行う活動及び防災資機材等の購入に係る支援
- ・自治会または自主防災組織の代表者等を対象とした**自主防災リーダー研修**の実施
- ・**防災士養成講座**および**防災士フォローアップ研修**の実施
- ・防災マップ・ハザードマップの作成・全戸配布

☆具体的な取組（主なもの）

●防災リーダー研修（地域防災の中核となるリーダーを養成）

- ・自主防災組織または自治会の代表者等
基礎編、応用編、実践編に日程を分けて実施⇒リーダーの識能・熱意は地域の防災力向上に直結

●防災士養成講座

- ・地域防災力の向上につなげるため、公費で防災士を養成（受講には自治会長からの推薦が必要）
※養成状況は平成25年から始まり、7年目の現在354名（女性は21名）

●防災士フォローアップ研修

- ・講義とグループワーク等により防災士のスキルアップを図る⇒自治会・地域の防災力向上を促進

- ★防災士等連絡協議会を設置（防災士、防災リーダー等の有志により平成30年9月に発足）

【自主防災組織の現状】

市内の自治会総数254のうち、自主防災組織を構成している自治会は196で組織率は80.7%となっている。

（これまで8組織が知事表彰を受賞されている）

また、組織結成補助金として3万円（限度額）、活動補助金として世帯数に応じて2～3万円（限度額⇒費用の2/3）、地域連合活動補助金として10万円、資機材の整備事業補助金として10年単位で10万円を補助している。今年度の予算は300万円。

※資機材⇒防災ラジオ、シート、土嚢、ヘルメット等

※事業所との種々の協定はほぼ締結済み

①各自治会（自主防災組織）単位での活動

- ・通学路、避難経路等の危険個所の確認、マップ作り
- ・防災研修会、講和等の企画・実施
- ・防災訓練等の実施（DIG、HUG、実動訓練）
- ・情報伝達・避難訓練、非常食の炊き出し、救急・救命訓練、消火訓練、避難行動要支援者の避難訓練等

②地域連合防災組織の活動

- ・上記活動に加えて、避難所運営訓練

③その他

- ・総合防災訓練への参加
- ・避難行動要支援者の支援体制構築
- ・率先避難への取り組み

所 感

自治会を中心とした自主防災組織の在り方は小野市と同じだと思うが、防災士を公費で養成し、現在 354 名もおられるのに驚愕した。そのフォローアップ研修も実施され、有事の際には自治会長の補佐として防災リーダーの役割を担っているところは素晴らしい。また、多種多様なセミナーやイベントを継続して開催され、市民の防災意識の高揚を図り、地域防災力の強化に努められているなど、大変参考になった。

【第 2 日】

セーフコミュニティ事業について

日 時：令和 2 年 2 月 5 日（水）10：00～

場 所：福岡県久留米市議会 委員会室

担当課：久留米市協働推進部安全安心推進課

久留米市概況

市域面積 229.96km²

人 口 304,703人

市政施行 明治22年4月1日

財政状況の指標（平成29年度決算）

財政力指数 0.66

経常収支比率 95.3%

実質公債費比率 3.6%

地方債残高 145,523 百万円



☆セーフコミュニティ

セーフコミュニティとは、「けが」や「事故」など、日常生活の中で私たちの健康を阻害する要因を「予防」することによって、安全なまちづくりを進めているコミュニティである。

WHO 地域の安全向上のための協働センターが提示している七つの指標をクリアした時点で「セーフコミュニティ申請書」を提出、その後、申請書と現地視察による審査を経て、七つの指標を満たしていると認められたコミュニティが「セーフコミュニティ」として認定される。（5年ごとに更新）

久留米市は平成 25 年に取得、平成 30 年に再取得している。

★取り組むきっかけ

①指定暴力団の本部事務所があった⇒危ない町。

②平成 17 年に 4 町と合併し、新しい町になったが各町との温度差があった⇒全市一体となる効果があるのではとの思い。

背景 1⇒市政運営方針（中期ビジョン）

- ・市民との協働が見えるまち
- ・みんなで安全に取り組むまち

背景 2⇒協働によるまちづくり

- ・地方分権・地域主権の進展
- ・市民ニーズの多様化・高度化
- ・自治意識の向上と市民活動の活発化

背景 3⇒安全・安心な市民生活の確保

- ・人口減少と人口構造の変化
- ・コミュニティ意識の変容
- ・事故、犯罪・暴力事件への不安
- ・東日本大震災などの大規模災害

★セーフコミュニティ推進体制

1.セーフコミュニティ推進協議会（会長：久留米市長、委員：57 団体 58 名）

- ・基本方針の協議、決定
- ・全市的な連絡調整

2.対策委員会（重点取り組み分野）委員 117 名

- ①交通安全
- ②児童虐待防止
- ③学校安全
- ④高齢者の安全
- ⑤防犯
- ⑥DV 防止
- ⑦自殺予防
- ⑧防災

- ・取り組みの検討・改善
- ・新たな方策等の検討

3.外傷等動向調査委員会（委員 7 名）

- ・データ収集・分析
- ・効果測定・評価

4.上記の体制を日本セーフコミュニティ推進機構が支援

★取り組み項目

1.交通安全

- ・高齢者の交通事故防止
- ①実技型交通安全講習の実施（講義型から移行）

②明るい服や反射材の着用促進キャンペーンの実施

③地域と連携した交通安全マップ作り

・自転車の交通事故

①地域の交通安全ボランティアを活用した交通安全教室を実施

②自転車安全利用キャンペーンの実施

○効果

・高齢者関連事故件数が平成 25 年度 812 件、平成 30 年度 676 件に減少

・自転車の交通事故発生件数（人口 10 万人当たり）平成 25 年度 171 件、平成 30 年度 101 件に減少

2.児童虐待防止対策

①乳幼児のいる家庭への訪問

②中学校への出前サロンの実施

③子供による虐待防止を訴えるオレンジリボン作り

3.学校安全

・上津小学校（校区）をモデルに取り組みを進めており、平成 29 年度から全小学校へ拡大

①安全意識を高めるポスターの作成

②校内安全マップの作成

③地域と連携した体験型交通教室の実施

④地域と連携した通学時の交通指導の実施

⑤地区安全マップの作成

⑥地域と連携した防犯パトロールの実施

○効果

・日本スポーツ振興センター災害給付対象けがの発生件数が平成 25 年度 1489 件、平成 30 年度 1212 件に減少

4.高齢者の安全

①転倒の危険性や原因をまとめたパンフレットの作成・配布

②介護予防事業をはじめとする健康・体力維持のための講座の実施

③虐待や認知症のケアに関する講演会、学習会の実施

④高齢者を地域全体で支援するネットワークづくり

⑤家族介護教室の実施

5.防犯

①特に被害が集中している駐輪場などで自転車の二重施錠の呼びかけ

②警察や地域のボランティアと連携した地域安全マップ作りや防犯パトロールの実施

③地域社会全体での暴力追放運動を推進

○効果

・市内の街頭犯罪認知件数が平成 25 年度 2028 件、平成 30 年度 752 件に減少

※街頭犯罪・・・身の回りで発生しやすい 10 の犯罪の総称

（侵入犯、車上狙い、部品狙い、自販機狙い、自転車盗、オートバイ盗、路上強

盗、ひったくり、強制わいせつ)

6.DV 防止

- ①DV 防止に関する出前講座や各種広報啓発の実施
- ②DV 被害者や子供に接する関係者への研修の実施
- ③医療機関と連携した被害者の早期発見と支援につなぐ体制づくり
- ④DV 被害者の子供向けの電話相談、学習支援

7.自殺予防

- ①うつ病対策講演会、街頭啓発キャンペーンの実施
- ②ゲートキーパー養成講座の実施
※ゲートキーパー⇒悩んで人に気づき、声をかけ、話を聞いて必要な支援につなげ、見守る人
- ③かかりつけ医に対するうつ病アプローチ研修の実施
- ④自殺対策連絡協議会などによるネットワークの強化

○効果

- ・市内の自殺者数が平成 25 年度 57 件、平成 30 年度 42 件に減少

8.防災

- ①定期的な防災研修、訓練、啓発の実施
- ②地域における防災リーダーの育成
- ③災害発生時の個別対応計画作成
- ④地域の避難計画を作成

○効果

- ・自主防災訓練の回数・参加者数が平成 23 年度は 49 回、2696 人だったが、平成 30 年度は 99 回、6133 人で参加者数は 2.3 倍になった。

★これまでの取り組みの成果（数字以外）

- 1.新たな協働による「顔の見える関係」づくり
自殺予防の「久留米方式」をはじめ、医療機関・警察・関係団体など連携・協力による取り組みの拡大
- 2.毎月 21 日のセーフコミュニティ活動の広がり
国際認証日にちなんだ登下校の見守り、セーフコミュニティ通信の配信、防災情報伝達訓練の実施
- 3.企業や団体からの支援や取り組みへの賛同
企業からの寄付、関係団体が発行する情報誌への掲載
※青パトはダイハツからの寄付

★今後の課題

- 1.認知度の向上
若い世代を対象とした広報・啓発活動
- 2.取り組みの裾野拡大

家庭や個人など、一人一人が実践できる取り組みの拡大

3.連携・協働の新たな仕組みづくり

セーフコミュニティ推進協議会や対策委員会以外に、現在、セーフコミュニティ活動に参加していない団体やNPO法人・学生などとの連携・協働

所 感

これだけ広範囲に渡る取り組みを支える組織の運営をまとめるのは凄い！
中核都市でありながら担当職員は2名で、主な業務は日本セーフコミュニティ推進機構に委託しているとのことだが、関係団体が毎年成果を出し続けているのはそれぞれ取り組む意識が浸透していることの表れであると思う。

【第3日】

読書活動推進計画における取り組みについて

日 時：令和2年2月6日（水）9：15～
場 所：大分県豊後大野市議会 委員会室
担当課：豊後大野市教育委員会
社会教育課・図書館



豊後大野市概況

市域面積 603.14km²（県土の9.5%）

人 口 35,718人（平成31年度末）

大分県の南西部、大野川の中・上流域に位置し、四季を通じておおむね温暖で一部の山岳地帯をのぞいては、平たん地の平均気温15～16℃と極めて農耕に適しており、古くから農業を基幹産業として発展してきた。

大正年間に開通した豊肥本線は豊富な石材によって多くの石造アーチ橋を生み出し、県内でも多い2市の一つである。

近年は少子高齢化の波は避けられず、高齢化率は43%を超えている。

★「豊後大野っこ」読書活動推進計画

1.計画の趣旨（抜粋）

子供の読書活動は、子供が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないものである。

子供が読書を通じ、様々な知識や教養を得るとともに人とのつながりを深めたり、感謝の気持ちを育むことができたりする地域社会をつくることを目的とする。

2.計画の目標と基本方針

(1) 計画の目標

「豊後大野っこ」が生涯にわたって本に親しむ習慣づくり

(2) 計画の基本方針

□基本方針 1

子供の読書活動の大切さや重要性についての啓発活動の推進

□基本方針 2

子供の成長に応じて関係機関が連携した読書活動の推進

3.計画の位置づけ

「子供の読書活動推進に関する法律（平成13年法律第154号）」に基づき、市における子供の読書活動の推進に関する施策についての計画として策定する。また、平成28年度策定の「第3次豊後大野市総合計画」における市の将来像「人も自然もシアワセなまち」や「第3次豊後大野市総合教育計画」における基本理念「ふるさとを愛し、地域とともにシアワセな未来を拓く、たくましく、心豊かな豊後大野の人づくり」を目指した取り組みとして読書活動を推進する。

4.計画の期間

平成30年度から平成34年度までの5年間とし、周期的な見直しを行う。

★現状と課題

1.市内の子供の読書活動の現状

平成30年6月に小学校2年生、5年生、中学校2年生を対象に調査を実施

①本を読むのが好き⇒83.3%>77.8%（前回）

大半の子供たちが本を読むことを好んでいる

②1か月間に本を何冊読んだか？

0冊 3.7%<5.5%、4冊以上 79.2%>65%

読書活動の実践も進んでいる

③1か月間に町の図書館に何回行ったか？

0回 48.1%<58.2%

徐々に改善がみられる

④1週間に学校の図書館に何回行ったか？

0回 9.5%<9.6%、2、3回 58.4%<63%、毎日 31.4%>19%

多くの子供たちが学校図書館を利用

同時期に公立の幼稚園、こども園の年長者の保護者、小学校2年生、5年生、中学校2年生の保護者に対しても調査を実施

⑤お子さんにとって読書活動は重要だと思いますか？

とても重要または重要 98.4%

⑥お子さんに読み聞かせをしたことがありますか？

ある 90.8%

保護者の方々の読書活動に対する認識が高い

2. 学校の読書活動における現状と課題

(1) 小学校について

① 具体的な取組

- ・朝読書のほかに年に数回「読書月間」を設定、児童が日ごろ読むことの少ない9分類以外の本にも親しむ工夫をしている。
- ・取り組みの目当てを設定したり、頑張りカードを使用したりしながら意欲的に本を読ませるための工夫をしている。
- ・国語科の並行読書、総合的な学習や社会科と関連させて行う調べ学習などを、学校司書の支援や協力を得ながら教科の学習と関連させた活動を行っている。
- ・全小学校で小学生新聞を購入し、授業や宿題等に活用している。
また、校内に掲示したり、昼の放送で記事を紹介し、学校独自の活用もある。
- ・地域や保護者の方と連携した取り組みとして、ボランティアによる読み聞かせをしている。また、教職員による読み聞かせや児童同士による読み聞かせ（ペア読書）を実施している学校もある。
- ・図書館では、推薦図書や新着図書の紹介のほかに、季節や行事に合わせたコーナーを設置、毎月「図書館だより」を発行しながら興味や関心を高めている。
- ・市図書館や県立図書館と連携し、資料の充実を図っている。

② 課題

- ・並行図書や調べ学習を行うために使う蔵書の質や量に課題がある。
質・量ともに整えられた蔵書の中から児童一人一人が本を選んで読むことができる環境が望ましい。
- ・読書活動のための時間の確保、特に高学年は授業の中でじっくりと読書する時間を確保しにくい実態がある。
- ・学校司書が2校を兼務している学校がある、読書活動を充実させるためには全校配置が望ましい。⇒困難

(2) 中学校について

① 具体的な取組

- ・図書館活用教育全体計画および年間指導計画を作成
- ・朝実習、放課後の時間を活用した20分程度の一斉読書
- ・小学校に出向き、朝実習や授業の中で生徒が読み聞かせ
- ・各教科、総合的な学習等で課題解決のための調べ学習など図書館活用授業を実施
- ・生徒会専門部と連携して読書記録カードの作成、本の紹介ポップづくり、ビブリオバトル、生徒の実態意識調査など
- ・学校司書と連携し、本の購入希望調査、関連教材や調べ学習に必要な資料収集を依頼

② 課題

- ・調べ学習に必要な資料の充実
- ・発達段階に応じた本を選択できる生徒の育成
- ・学校司書が小中兼務の学校は、必要な資料収集等の相談時間が確保できない

※図書館活動年間指導計画は平成 29 年度までに全校作成済（小中学校）

3. 学校図書館における現状と課題

(1) 具体的な取組

- ・ 並行読書、調べ学習の補助
他の学校図書館、県立・市図書館から資料を収集
- ・ 読み聞かせ
教職員、地域ボランティア、児童生徒の委員会活動、上級生など様々な読み聞かせ活動を定期的に実施
- ・ 家庭読書
保護者からの読み聞かせを行ってもらう学校もある
- ・ 読書活動
朝読書、ペア読書、読み聞かせ、ブックバイキング
- ・ 読書月間・習慣の設定
図書館クイズ、ビンゴ、アニメシオンの実施、図書委員会による集会（紹介劇、大型本読み聞かせ、クイズ、おすすめ本の紹介など）
- ・ 「図書館 DAY」を設け、図書館へ行くことを推進
- ・ 新聞活用
授業への取入れ、スクラップブックを作成し「新聞の読み方」を鍛える
- ・ 貸出冊数制限の増加（週末、学校司書が不在の時は 2 冊など）
- ・ 市図書館の団体貸し出し、移動図書館を利用
- ・ 「図書館だより」を定期発行
- ・ 館内での過ごし方の指導など、図書館内の環境整備を行っている

(2) 課題

- ・ 嗜好の固定化
同じ本を何度も読んだり、同じシリーズを読み続けたり、読書傾向が固定化しつつある。幅広いジャンルの本に興味を持ってもらい、読書の幅を広げたい。
- ・ 読書の質の向上
特に小学校から中学校へ進学し、読書の難易度が上がり、「活字アレルギー」「読書嫌い」になる生徒が多い。また、貸出冊数にこだわって読まずに帰す生徒もおり、「読まない」という自由を認めつつ、読書の楽しさを知ってもらう工夫が必要
- ・ 図書館への来館の工夫、読書の推進
読書に関心のない児童生徒は、まず図書館に来ない。どのように図書館へ誘うか、読書が嫌いな児童生徒へどのように本を進めていくか工夫が必要
- ・ 公共図書館
蔵書数が少なく、授業で使う資料など数の確保に苦心。各学校図書館、県立、市図書館との連携をより円滑にする必要がある
- ・ 国語科、教職員、地域との連携
読書の時間が確保しづらくなっている。授業枠の 5～10 分でも図書館に行き、本の貸し出しをするなどの連携が必要

- ・図書館マナーの徹底
本の扱いや過ごし方など、公共性の指導
- ・環境整備
意欲関心を高めるための配架、ポップなど、環境の工夫

4. こども園・保育園における現状と課題

(1) 具体的な取組

- ・毎日の保育の中での読み聞かせや月に一度のボランティアによる読み聞かせ
- ・月に一度巡回の移動図書館「にじいろ号」を利用し、家庭での読み聞かせを推進、絵本を通して家族のふれあいの時間を創出

(課題)

- ・乳幼児期の子供への読み聞かせの機会を提供
- ・家庭での読み聞かせの時間の確保

5. 幼稚園における現状と課題

(1) 具体的な取組

- ・季節や活動、子供の興味・関心にあった絵本をいつでも読めるような環境づくり
- ・発達段階や季節・活動にあった絵本や紙芝居を選択し、日々読み聞かせをしている。また、保護者やボランティアによる読み聞かせもある

(2) 課題

- ・読み聞かせを家庭でも実践してもらえるように幼児期の読み聞かせの大切さを伝えていく必要あり

6. 保健・福祉事業における現状と課題

(1) 具体的な取組

- ・こんにちは赤ちゃん事業（乳児家庭全戸訪問事業）
ブックスタートとして絵本のプレゼントし、図書館利用についてのお知らせや絵本などを紹介
- ・すくすく広場（乳児学級）
偶数月にボランティアによる読み聞かせ
- ・幼児検診
1歳6か月検診、3歳6か月検診では待合スペースでボランティアによる読み聞かせ

(2) 課題

- ・継続した読み聞かせボランティアの確保

7. 児童館における現状と課題

(1) 具体的な取り組み

- ・ソファを置き、読書しやすい環境づくり

- ・毎月、市図書館から図書を借り入れ、幅広い年齢の子供に対応
- ・館内の掲示スペースで情報発信
- ・ニーズや地域の特色に合わせた内容で図書の充実や読み聞かせ

(2) 課題

- ・更なる蔵書の充実と読書スペースの環境整備

8.市図書館における現状と課題

(1) 具体的な取り組み

- ・資料の選定・配架
- ・移動図書館
幼稚園、保育園、こども園、小学校へ巡回
- ・行事・講座の開催
お話し会、工作・科学教室、ワークショップ等を開催
- ・施設見学、職場体験の受け入れ
- ・団体貸し出し、調べ学習等への支援
- ・情報発信・広報活動
「図書館だより」を掲載、また、児童向けの新刊案内、中高校生向けの図書案内、ホームページやケーブルテレビを活用

(2) 課題

- ・手狭で資料も十分ではない、新図書館で改善

9.公民館図書室における現状と課題

中央公民館を除く 6 つの公民館に図書室がある

課題としては合併前の規模のままなので、公民館によって広さや蔵書冊数に差異があり、利用環境も違う。

10.地域・家庭における現状と課題

地域では、各学校、施設、図書館等でボランティアによる読み聞かせや絵本に親しむ活動等が活発に行われている。

各家庭においても様々な取り組みが行われており、今後も PTA 連合会等と連携を図りながら進めていく必要がある。

所 感

11 の小学校と 7 か所の中学校に 11～12 名の司書（嘱託）を配置、大きい学校は専任としており、司書が選ぶ 100 冊をすべて読破すれば手作りのメダルを贈呈している。

ボランティアは 5～6 人が 1 チームで、大きい学校は 2 チームで活動している。今年で 20 周年、最年長は 70 歳代（教員 0B）、最年少は 40 歳代で世代交代がうまくいっている。

また、外国籍の子供はいないが、165 か国の領事館、大使館に本の寄贈の依頼をしている⇒35 か国から寄贈の申し込みがある。今後、新図書館建設を機にグローバル化を考

えていくとのこと。

規模に差はあるものの合併前の各町の施設を有効に利用して、読書活動を中心に豊後大野市の未来を支える人材の育成に全市を上げて取り組んでおられる市政に感銘を受けた。

活字に親しむことは教育の原点、今の時代で常に話題となっている「いじめ」や「暴力」などが減少するような情操教育にも有効な施策ではないかと思う。

令和2年2月20日

小野市議会議長 川名善三 様

総務文教常任委員会
河島三奈

⑨

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和2年2月4日（火）～令和2年2月6日（木）

2 視察メンバー

岡嶋正昭委員長 平田真実副委員長 河島信行委員、河島三奈委員
川名善三委員 小林千津子委員、松永美由紀委員、喜始真吾委員

3 視察先及び調査内容

- (1) 福岡県防府市（人口：約11万6千人、面積：約189.37Km²）
防災対策の取組みについて
自主防災組織の活性化等
担当 総務部 防災危機管理課
- (2) 福岡県久留米市（人口：約30万5千人、面積：約229.96Km²）
セーフコミュニティ事業について
担当 健康福祉部 長寿支援課
- (3) 大分県豊後大野市（人口：約3万5千人、面積：約603.14Km²）
読書活動推進計画における取組について
担当 健康福祉部 健康づくり支援課

4 調査結果

【第1日】

山口県防府市

人口 約11万6千人 面積 約189.37Km²

≪視察項目≫

1) 防災対策の取組について

座学にて、担当課長から説明を受けた。

≪視察内容≫

防府市は、その昔塩田地帯として栄え、塩田廃止後は、工業地帯へ変遷していった。浸水想定ラインは江戸時代の海岸線である。

防府市における近年の災害は大正7年から、平成21年までの愛仇に10回の大災害に見舞われている。昭和25年の大火を除けばいずれも洪水の被害で、死者も出ているが、少数であった。一番新しい平成21年7月の中国九州北部豪雨による土砂災害で犠牲者が19名となり、これがきっかけで防災体制の見直しがなされた。

防災対策の充実として下記の通り、詳細施策ごとの取り組みがなされている。

1 防災意識の高揚

- ・小・中学校での防災出前授業や防災講演会等の実施
- ・防災関係機関や地域住民と協働した市総合防災訓練の実施
- ・防災リーフレットの全部改定・全戸配布
- ・地域の出の避難場所や避難経路選定のためのワークショップの実施

2 防災体制の強化

- ・職員体制等の強化
- ・市民や要配慮者利用施設への緊急告知防災ラジオの配布
- ・防災倉庫への備蓄物資の充実
- ・業務継続計画、職員行動マニュアルの策定

3 地域防災力の強化

- ・自主防災組織が行う活動及び防災資機材等の購入に係る支援
- ・自治会または自主防災組織の代表者等を対象とした自主防災リーダー研修の実施
- ・防災士養成講座及び防災士フォローアップ研修の実施
- ・防災マップ、ハザードマップの作製。全戸配布

また、中国九州北部豪雨災害の教訓を風化させないために、7月21日を条例により「防府市市民防災の日」とし、毎年、特別講演会、防災標語の募集と表彰、展示体験型

イベントなどをおこなっている。特に商業施設で行った体験型イベントでは、通りすがりの防災に興味のない方々も引きこめたいらしい。

女性向け防災セミナーは、女性の参画促進、地域における生活者の多用な視点の反映を目標に男女共同参画の視点を取り入れた防災対策の推進を目指している。内容は、パッキングなど「食」をテーマに今あるのもで、何ができるか、アレンジ等「入口」で興味を持ってもらえるように工夫をしている。

防災士養成講座では、全額公費で防災士を養成。対象者は地元地域で活躍することを前提で、自治会長からの推薦が必要、現在は 354 名のうち女性は 21 名。課題は、地域による温度差と女性の少なさである。

また、「自主防災組織等支援協力員」を設置し、「指導」に力を入れている。自主防災組織の活動は、各自治会単位で行われている。それに加えて総合防災訓練への参加し、消防、警察、自衛隊、協定締結事業所などとも連携し、率先避難の取り組み、災害時要援護者の支援体制の構築として対象者の名簿を住宅地図に展開するなどの方法を実践している。

災害から 10 年が経過し、被害の風化がすすみ、危機意識の醸成が困難であることが課題。災害を知らない世代への啓発が重要である。

《所 感》

防災への取組は、どこも同じような取組をされている。それは仕方のないことで、それしかしようがないということもある。ただ、決定的な違いが出るのは、「危機意識の濃度」だと感じる。実際に災害を体験している地域の住民は、意識が「高い」というよりは「濃い」と感じる、かくいう私自身も「防災」について重要性を認識し、学習や、啓発に力を入れているつもりでも、実際に体験したことがないので、いまいち現実味に欠けると思いながら活動している。人間やはり「実体験」に基づく以上の学習はないと私は考えている。これからは実際に被災地に足を向けるとか、災害ボランティアに参加するなどの「実践」を経験したいと考えている。

【第 2 日】

福岡県久留米市

人口 約 30 万 5 千人 面積 約 229.96 Km²

《視察項目》

セーフティコミュニティ事業について
座学にて、担当者から説明を受けた。

《視察内容》

セーフティコミュニティの考え方は、ケガは偶然の結果ではなく、予防できるという考え方。そのために、様々なデータを収集分析して予防策を考える。

地域のかた、家庭、市役所、学校、医療機関、警察、消防などみんなと一緒に取り組んでいくこと。

○取組の背景

平成の大合併で、旧市の温度差、意識の差がみられ、統一の目標を掲げることで団結することをめざした。社会的には、市民の参加・参画をさらに促進するため、地域のみんなで連携。協力して地域の課題解決や市民ニーズに的確に対応し、実情にあったまちづくりを進めるため。安全安心な市民生活の確保のために「セーフコミュニティ」に取り組んだ、結果として国際認証をうけ、名実ともに「安心安全なまち」を作っている。

○推進体制

「セーフコミュニティ推進協議会」を立ち上げ、市長を会長に現在 58 名で構成される。これは日本セーフコミュニティ推進機構の支援を受け、重点取り組み分野の対策委員会 8 部門、①交通安全、②児童虐待防止、③学校安全、④高齢者の安全、⑤防犯、⑥DV防止、⑦自殺予防、⑧防災、を作り、各専門において、取組の検討・改善、新たな方策の検討などを行う、実働部分。117 名、其処とは別に「外傷等動向調査委員会」7 名でデータの収集、分析。効果測定、評価を行っている。

「外傷等動向調査委員会」は市担当者、医師会、保険会社、大学病院。救命救急、消防、保健所などの機関からの代表者で構成され、定期開催される。ここで統計データなどを行政から提出し、分析。判断の結果を施策に反映させる。

各専門分野の取り組みは主に、出前授業や、チラシによる啓発、とにかく継続して発進し続けることで、特に自殺予防の分野では、久留米市独自の医療機関との連携が評価され、マスメディア報道もされている。

2011 年からの統計を見ると、各分野で軒並み数字が改善され、目標とする、「安心安全」市民の精神、環境とも向上している。

今後力を入れていくところは、20 代～30 代の世代への啓発で。日常生活を送るうえでの注意を心がけること、取組の効果、検証、継続である。

《所 感》

セーフコミュニティに取り組むことの意義について疑問など出てくることもあるが、「認証」を取得することが目的なのではなく、「みんなと一緒にになって市のために頑張ろう」というスローガンのようなもの形として意識している。のかな、と感じた。

取組全体では小野市も同じようなことがなされており、「認証」なら小野市もそう労せずを取得できるのではないかと思った。(今のところ必要性は感じていないが)

特筆すべきは、自殺予防の取り組みで、医療機関や、臨床心理士などの連携が素晴らしいと感じる、小野市はまだそこまで自殺者の数が多くないからか、同じような基準までの取り組みはなされていなかった。ここの分野でこれだけの体制がとれるのなら、認知症予防の分野でも同じようなことができるのではないかと思い、質問したがそこには至っていなかった。この久留米式と呼ばれる連携体制は、大いに学ぶべきものだと感じた、小野市にも反映して考えてみたい。

【第3日】

大分県豊後大野市

人口 約3万5千人 面積 約603.14Km²

《視察項目》

読書活動推進計画における取組について

学校、幼稚園との連携等

座学にて担当者から説明を受けた

《内 容》

豊後大野市まちづくり市民会議において4年前から読書活動の拠点となる図書館の整備について議論されていることから、平成28年から10年間を計画期間とする「豊後大野市第2次総合計画」において、「図書館を整備すること」を掲げている。具体的には幼児から高齢者まで親しみやすく、利用しやすい施設として、地域情報や学習スペースの提供といった様々な都市間機能の整備と充実を推進するため、新図書館の建設について検討を行い、あわせて学びの拠点となるような各種施設の集約化に取り組む、その中で自主的な読書活動を推進し、生涯にわたって読書活動ができるようにと「豊後大野っ子読書活動推進計画」を策定されている。

まず、小学校では無償のボランティアグループが読み聞かせ活動をしていただいている、学校によって違いはあるが、あるグループでは最近活動20周年を迎えられた、構成は保護者、学校司書のOBなどで年齢は70代～40代である。

移動図書館や小学校、中学校、幼稚園での各成長段階に合わせた「本に親しむ」取り組みが展開されている。ただ、課題も多く、その中心的な問題は人手不足である。図書館に来ない生徒への働きかけも容易ではない。

できるだけ本に触れる環境を整備し、地域による格差をサービスで埋めながら、今後も読書活動推進に努力をしていく。とのこと。

《所 感》

「読書」にこれだけの力と意識を注ぐ自治体は珍しいかもしれないと思った。

小野市の図書館も、素晴らしい取り組みをされていて、全国的にも評価は高く、土地柄か「図書館」がすごく便利な位置にあり、市民も動きやすい動線上に位置するので、ハード的にこれ以上の事業は必要ないと思っている。取り組み内容は、小野市でも同じように展開されていて、比較しながら説明を聞いていたが、やはり問題点は同じで、「人手不足」の一言である。私は個人的に「読書」には人間の感性が必要で、今はやりのAIでは、「読書活動」にはあまりつながらないのではないかと感じている。活字に親しみ、想像力を駆使して本の世界を楽しむことができることは、そのものがコミュニケーションの賜物だと思っている。読書というものは一人でもできるが、その後に感動を分けあう、世界を広げる、には同じように感じる人間があつてこそだと思う。私も豊後大野市の理念には大きく同意する。小野市でも読書活動の推進には、力を注いで頂きたい。現在の小野市の図書館のみなさんの努力に感謝するとともに、全面的に応援していきたい。

令和 2年 2月 20日

小野市議会議長 川名 善三 様

総務文教常任委員会
小林 千津子 ⑩

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和2年2月4日(火)～令和2年2月6日(木)

2 視察メンバー

岡嶋正昭	平田真実	松永美由紀	喜始真吾	河島三奈
小林千津子	河島信行	川名善三		

3 視察先及び調査内容

- (1) 山口県防府市 (人口：約11万6千人 面積：189.37k㎡)
防災対策の取組について
(自主防災組織の活性化等)
- (2) 福岡県久留米市 (人口：約30万5千人、面積：229.96K㎡)
セーフコミュニティ事業について
- (3) 大分県豊後大野市 (人口：約3万5千人、面積：603.14K㎡)
読書活動推進計画における取組について

4 調査結果

【第1日】 2月4日(火) 13時30分～15時30分

山口県防府市(人口:約11万6千人 面積:189.37k㎡)

《視察項目》

防災対策の取組について

《視察内容》

防災対策の取組み ～自主防災組織の活性化～

近年の災害

平成21年7月 中国・九州北部豪雨

降雨量 331.5mm (3日間) 日降水量 275mm 概ね150年に一度

日最大1時間降水量 72.5mm 過去1位 概ね110年に一度

被害状況

死者 19名 (災害関連死含む) 負傷者 35名

全壊家屋 30棟 半壊家屋 61棟

防災対策の充実

常日頃から地域や学校での講習会や防災訓練等を実施し、防災に関する意識の高揚を図る

自主防災組織の強化や活動支援に、積極的に取組、地域防災力の強化に努める

地域防災力の強化 ～人材の育成～

防災リーダー研修

地域防災の中核となるリーダーを養成

自主防災組織又は自治会の代表者

リーダーの識能・熱意は地域防災力向上に直結

防災士養成講座

公費で防災士を養成

受講には自治会長からの推薦が必要

女性向けセミナー

男女共同参画の視点を取り入れた防災対策の推進

自主防災育成活動支援事業(官学協働)

自主防災組織等支援協力員

設置目的

自治会・自主防災組織の「活動」「組織結成」を支援

委嘱の条件

経験を有し、見識が有る者 指導力及び行動力に富み 人格円満

委嘱期間 2年

業務 自主防災組織等に関する活動事例等の紹介

委嘱状況 15名

自主防災組織について

地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識に基づき自主的に結成する防災組織をいう

認定要件

地域住民が組織した自治会単位、又は近隣自治体の合同体であって、当該自治会等の規約等に「自主防災活動に関する事」と明記され、災害時の連絡網の整備がされている組織

自主防災組織の現状

市内 16 地区（小学校区）ごと 自治会 254 結成 196

総合防災訓練への参加

市と防災関係機関の連携強化

自主防災組織には避難所運営組織の中核としての役割を期待

災害時避難行動要支援者の支援合い制構築

地域・自主防災組織等で実態の把握及び避難支援の計画作りを実施



《所 感》

山口県防府市は本州の西端、山口県の中央部にあり、瀬戸内海に面し東には市の再高峰大平山がそびえ、中央部には一級河川佐波川が流れる、県下最大の防府平野が広がる。昭和 26 年には一級河川佐波川の氾濫で死者 11 名、流潰家屋 1,083 戸、浸水家屋 3,397 戸と大きな被害にあわれ、記憶に新しいところでは、平成 21 年 7 月の中国・九州北部豪雨の死者 19 名、負傷者 35 名と大きな被害に見舞われています。7 月 21 日を条例により「防府市市民防災の日」と定められたとお聞きしました。災害から命を守る心構えと備えは、悲しい災難に遭われたからこそ私達に伝わるものがありました。

【第 2 日】 2 月 5 日（水） 10 時 00 分～12 時 00 分

福岡県久留米市（人口：約 30 万 5 千人、面積：229.96K²m²）

《視察項目》

セーフコミュニティ事業について

《視察内容》

セーフコミュニティとは

WHO（世界保健機関）が推奨する安全・安心なまちづくりの国際認証制度「日ごろのけがや事故は、偶然の結果ではなく原因を究明することで、予防することが出来る」という理念に基づき、様々なデータを活用しながら、地域社会全体で進める安全・安心なまちづくりの取り組みです。

国際基準の認証制度

国際認証を取得するには、国際セーフコミュニティ認証センターが定める「7つの指標」を満たしている事を審査（書類審査・現地審査）で示す必要があります。久留米市は2013年（平成25年）12月に国内で9番目、中核市や九州市の自治体では初めて国際認証を取得し、2018年（平成30年）12月には再認証を取得。

セーフコミュニティの推進体制

○重点取組分野・項目

久留米市内で発生しているけがや事故の状況などから6分野及び10項目を決めて、重点的に取り組んでいます。

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1. 交通安全 | ①高齢者の交通事故防止 | ②自転車事故の防止 |
| 2. 子どもの安全 | ③児童虐待の防止 | ④学校の安全 |
| 3. 高齢者の安全 | ⑤転倒防止 | ⑥高齢者虐待の防止 |
| 4. 犯罪・暴力の予防 | ⑦犯罪の防止・防犯力の向上 | ⑧DV防止・早期発見 |
| 5. 自殺予防 | ⑨自殺・うつ病の予防 | |
| 6. 防災 | ⑩地域防災力の向上 | |

推進組織

久留米市セーフコミュニティ推進協議会

市、警察、消防の他、地域の安全安心活動に関わる多くの団体が参画し基本方針などを決定している。

対策委員会

専門分野に携わるメンバーで構成、具体的な取組の検討や見直しをしている

外傷等動向調査委員会

外傷データなどの収集・分析を行い取組効果の測定や対策委員会の支援

今後の課題

認知度の向上

若い世代を対象とした広報・啓発活動

取り組みの裾野拡大

家庭や個人など、一人ひとりが実践出来る取組の拡大

連携・協働の新たな仕組みづくり

S C協議会や対策委員会以外に、現在S C活動に参加していない団体やNPO法人・学生などとの連携・協働

〈所 感〉

{けがや事故は偶然の結果ではない 原因を究明することで予防する事が出来る} 様々なデータを基に先んじて予防することが安全、安心に繋がるという理念の基に事業が成り立



っています。

怪我をした時「どうして怪我をしたのだろう、同じことをしないためにはどうしたらいいのか」と考えるそれが「セーフコミュニティ」ということだと、書かれています。統計データやアンケートの分析をし、怪我の原因を調べ、予防策を考えて取り組む、そのあとの効果も確認をして見直しをする。

PDC Aサイクル（活動方針 活動実践 効果確認 改善）をまわして、安全、安心のまちづくりに取り組んでおられました。

【第3日】 2月6日（木） 10時00分～12時00分

大分県豊後大野市（人口：約3万5千人、面積：603.14K㎡）

《視察項目》

読書活動推進計画における取組について

（学校、幼稚園との連携等）

《視察内容》

第2次「豊後大野っ子」読書活動推進計画

平成30年度～平成34年度

第1章「豊後大野っ子」読書活動推進計画の策定にあたって

1. 計画の趣旨

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、完成を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことが出来ないものです。

子どもが読書を通じ、様々な知識を得ると共に人との繋がりを深めたり、感謝の気持ちを育むことができたりする地域社会を作る事を目的に本計画を策定。

2. 計画の目標と基本方針

子どもが生涯にわたって本に親しむ習慣づくりを目標に新たに第2次計画を策定し、次の方針のもと読書活動を推進

(1) 計画の目標

「豊後大野っ子」が生涯にわたって本に親しむ習慣」づくり

多くの本や人とのふれあいの中読書の楽しさについて気付かせ、子どもの自主的な読書活動を促進し、生涯にわたる読書活動に繋げる

(2) 計画の基本方針

「生涯にわたって本に親しむ習慣づくり」を目指し、発達段階や環境に応じた読書活動の推進

1. 計画の位置づけ

心豊かな豊後大野の人づくりを目指した取り組みとして読書活動を推進

2. 計画の期間

平成34年度までの5年間

第2章「豊後大野っ子」の読書活動の現状と課題

1. 市内の子どもの読書活動の現状

読書活動に関する調査	「本を読むのが好きか」
5年前 77.8%	現在 83.3%
町の図書館に行く回数	学校の図書館に行く回数が増えている

2. 学校の読書活動における現状と課題

(1) 小学校 具体的な取組

朝読書の他に年に数回「読書月間」を設定
がんばりカードを使用して意欲的に本を読ませる工夫
市内全小学校で小学生新聞を購入 授業や宿題等に活用

○課題

読書活動のための時間の確保に課題あり
学校司書が2校を兼務している学校があるが、全校配置が望ましい

(2) 中学校 具体的な取組

朝自習、放課後の時間を活用した20分間程度の一斉読書
小学校に出向き朝自習や授業の中で生徒がよみきかせ
学校司書と連携し本の購入希望調査、関連教材を資料収集

○課題

調べ学習に必要な資料の充実
発達段階に応じた本を選択できる生徒の育成
学校司書が小中兼務の学校は相談時間の確保ができない

3. 学校図書館における現状と課題

児童生徒が興味を持ち幅広い分野の本を手にとってくれるような選書、読書活動の工夫、館内での過ごし方指導、館内の環境整備を行う

4. 子ども園・保育園における現状と課題

具体的な取組

- 毎日の保育の中での読み聞かせ、月に一度のボランティアによる読み聞かせ
- 月に一度巡回の、市の移動図書館「にじいろ号」を利用し家庭での読み聞かせを推進

5. 公民館図書室における現状と課題

中央公民館を除く6つの各町の公民館に図書室があり、市民の学習意欲に応えられるように努める

第3章「豊後大野っ子」の読書活動の今後の取り組み

1. 小学校 主体的に読書活動を行う環境の整備
2. 中学校 自主的、自発的な学習活動や読書活動の充実
3. 学校図書館 楽しめる読書活動の創意工夫
特に図書館に来ない児童生徒への働きかけが重要
4. 子ども園・保育園 絵本の読み聞かせの充実
5. 幼稚園 読書への興味・関心をより湧かせる工夫
6. 保健・福祉事業 読み聞かせによる感性豊かな子育て支援
7. 児童館 年齢に合わせた読書環境整備
子どもたちの好きな本や読んでみたい本などの意見をいれて子どもが興味をもって読書できるように
8. 市図書館 豊後大野市の読書・情報拠点としての役割の充実
9. 公民館図書館 各町の読書・情報拠点としての役割の充実
10. 地域・家庭 読書活動を通じた子育て支援
放課後チャレンジ教室や児童クラブなどの読み聞かせ活動が一層充実されるよう働きかける

《所 感》

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにすると、はじめのことばに書かれています。幼児期からの読み聞かせに始まるブックスタート事業、(保護者から本にふれる)子育て支援課による絵本のプレゼントから始まり読書に興味を持たせ、生涯にわたって本に親しむ習慣づくりが構築されているようでした。豊後大野市は小学校が11校、中学校が7校ありますが11名の司書が常勤で配置されているとのことで、子どもたちが本に親しむ機会が作れるように力を入れられています。

第1次計画で子どもの読書環境を整備、推進をされ、平成28年度から10年間を計画期間とする第2次総合計画において、新図書館が建設されているとのことでした。新図書館は平成33年1月に開館、新資料館は同年の7月に開館とのようです。生涯にわたって本に親しむ環境を育む、豊後大野市の新図書館に足を運べればと思います。小野市においては、学校に司書が配備されていませんが、ブックママがおられると説明を受けました。幼児期からの読書の習慣が生涯に渡って人生を豊かにする、小野市の子どもたちも分かっていることと思います。



令和2年2月17日

小野市議会議長 様

総務文教常任委員会

河島 信行

印

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和2年2月4日（火）～令和2年2月6日（木）

2 視察メンバー

総務文教常任委員会

正副委員長 および 委員

3 視察先及び調査内容

- (1) 山口県 防府市
(人口 : 約11万6,000人、面積 : 189.37 Km²)
「防災対策の取組について」(自主防災組織の活性化等)
- (2) 福岡県 久留米市
(人口 : 約30万5,000人、面積 : 229.96 Km²)
セーフコミュニティ事業について
- (3) 大分県 豊後大野市
(人口 : 約3万5,000人、面積 : 603.14 Km²)
読書活動推進計画における取組について

4 調査結果

【第1日目】山口県 防府市

《視察項目》

「防災対策の取組について」（自主防災組織の活性化等）

《視察内容》

◎防府市総合計画について

① 基本方針

- ・常日頃から、地域や学校での講習会や防災訓練等を実施し、防災に関する意識の高揚を図る。
- ・自主防災組織の強化や活動支援に積極的に取り組み、地域防災力を強化する。

② 事業

- ・広報誌・防災ファイルの全戸配布
- ・防災出前講座の実施
- ・防災士の養成講座等の開催
- ・防災リーダー研修会の開催（対象は、自治会長等）
- ・女性向けセミナーの開催
- ・要支援名簿の適正な管理
- ・自主防災組織育成事業補助制度の活用

《所 感》

1 自主防災組織育成事業補助制度について

結成時並びに活動実績に応じた補助は、活動意欲を高めるのに有効である。
その活動を発表する機会を設ければ全市に活動が拡大すると思う。

2 要支援者の緊急災害時の救助について

自治会長、防災士等の『要支援者名簿』保管は、救助に有効である。

3 各自治会単位のイベント（夏祭り、運動会等）を通じて自治会員の交流を深めることも効果的である。

【第2日目】福岡県 久留米市

《視察項目》

セーフコミュニティ事業について

《視察内容》

事業内容

- ・セーフコミュニティ推進事業

① 背景

- ・市民みんなで安全に取り組むまちづくりを目指すため。
- ・犯罪・暴力事件への不安を解消する。

② 重点的な取り組み分野

- ・交通安全 ・児童虐待防止 ・学校安全 ・高齢者の安全 ・防犯
- ・DV防止 ・自殺予防 ・防災

③ 以前の実態

(高齢者)

- ・高齢者は自らの体力の変化に気づいていない。
- ・転倒リスク等の理解の不足

(市民)

- ・虐待や認知症への理解が不十分である。

(特に、若者)

- ・自転車のルール・マナーの認識が低い。

(児童虐待について)

気軽に相談できる人がいない。相談窓口があることを知らない。

子どものころから赤ちゃんとふれあう機会が少ない。

(防犯の現状)

- ・大規模集客施設や駅などで犯罪が起きている。(特に自転車盗が多い。)

《所感》

1 組織づくり

市長をトップにした『セーフコミュニティ推進協議会』の結成されている。

2 年齢別死因の把握

詳しく分析されている。

1位は自殺(10歳～69歳)、2位は交通事故(0歳～59歳)、
高齢者(70歳～89歳)は、転倒・転落が多い。

3 高齢者の安全対策について

転倒の危険性や原因をまとめたパンフレットの作成・活用は有効である。

【第3日目】大分県 豊後大野市

≪視察項目≫

読書活動推進計画における取組について

≪視察内容≫

- ① 目 標 「豊後大野っ子」が生涯にわたって本に親しむ習慣づくりをめざす。
- ② 期 間 5年間（平成30年度～令和4年度）
- ③ 実 践
 - ・移動図書館（にじいろ号）の活動開始
 - ・司書が選んだ書籍一覧表の作成
 - ・新図書館の蔵書数は、16万冊に増加
 - ・学校図書司書（11名、嘱託職員・常勤）の配置
 - ・読み聞かせボランティア（無償）（教員OB）の各学校配置
 - ・貸出システムの確立借りるときは、申し込んだ図書館また公民館に出向く。
返却先は、すべての図書館でも公民館でもOK。

≪所 感≫

- 1 豊後大野市の市費単独で「学校図書司書」の配置は児童・生徒の読書習慣づくりに大いに有効である。
- 2 読み聞かせボランティア（無償）（教員OB）が各小・中学校に配置されている。
- 3 ①②の配置の成果は歴然である。
やはり、学校の図書室に司書が常駐してこそ、児童・生徒は図書室に足を運ぶ。そして、読書の習慣を身につける。
- 4 学校図書室と公共図書館との連携が密なのが、最高である。
- 5 移動図書館（にじいろ号）の定期的な市内巡回は、市民の読書意欲を高める。
- 6 「読書」は、認知症予防に大いに効果的である。

令和 2年 2月20日

小野市議会議長 川名 善三 様

総務文教常任委員会

川 名 善 三

印

行政視察報告書

先般、実施しました、総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和2年2月4日（火）～2月6日（木）

2 視察メンバー

岡嶋正昭・平田真実・河島三奈・河島信行・小林千津子・喜始真吾・松永美由紀

3 視察先及び調査内容

- (1) 山口県防府市（人口：約11万6千人、面積：189.37Km²）
災害対策の取組について
- (2) 福岡県久留米市（人口：約30万5千人、面積：229.96Km²）
セーフコミュニティ事業について
- (3) 大分県豊後大野市（人口：約3万5千人、面積：603.14Km²）
読書活動推進計画における取り組みについて

4 調査結果

【第1日】

山口県防府市

人口：約11万6千人、面積：189.37Km²

《視察項目》

災害対策の取組について

《視察内容》

1) 防災対策の充実

①防災意識の高揚

- 広報誌・防災ファイルの全戸配布
- コミュニティFMの活用
- 市民防災の日の制定及び防災講演会等の実施
- 防府市民防災の日



【防災ラジオ】

平成21年の7月の中国・九州北部豪雨の教訓を風化させないため、7月21日を条例により「防府市市民防災の日」として毎年啓発イベントを実施（講演会、防災標語の募集など）

- 防災出前講座の実施
- 女性向け防災セミナーの開催



②防災対策の強化

- 職員体制の強化
- 市民や要配慮施設への防災ラジオの配布
- 防災倉庫への備蓄物資の充実

③地域防災力の強化

- 防災リーダー研修会の開催

・地域防災の中核となるリーダーを養成するため、自主防災組織又は自治会の代表者、防災部長、防災士等に座学と実技により実践的な知識・技術を習得

- 防災士養成講座及びフォローアップ研修会の開催

・地域防災力の向上につなげるため、公費で防災士を養成（受講には自治会長からの推薦が必要）

防災士養成状況

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
養成数	38	52	51	50	67	38	58
累計	38	90	141	191	258	296	354

2) 自主防災組織について

自治会などを中心に地域住民が協力して自発的に組織するものです。それぞれ地域の実情に応じた地域ぐるみで参加できる組織

- ①自主防災育成活動支援事業（産学協働による出前授業等）の実施

○対象は、小・中学校の児童・生徒やその保護者、及び自治会等

- ②自主防災組織等支援協力員の派遣

〈設置目的〉

自治会・自主組織の「防災に関する活動」並びに「自主防災組織結成」を支援するため

〈業務〉

- ・ 自主防災組織等の体制づくりに係る防災訓練・研修・講習会等、防災活動に関する助言、指導等
- ・ 自主防災組織等に関する活動事例等の紹介
- ・ 自主防災組織等による要配慮者への支援体制の確立及び実践並びに安否確認票等の作成についての助言等
- ・ 自主防災組織の結成に向けた活動に関する助言等

〈委嘱状況〉

15名

③ 自主防災組織育成事業補助金制度

○ 防災資機材整備に対する補助金

- ・ 対象経費の2/3以内で、1単位自治会に10万円

○ 自主防災活動に対する補助金

自主防災組織で行う防災訓練や講演等に係る経費について補助金を交付

- ・ 組織世帯数にて2万円から10万円
- ・ 限度以内金額にて所要金額

〈所 感〉

防府市では1990年代以降、大きな風水害が5回発生、特に平成21年7月の中国・九州北部豪雨においては、死者19名という大きな被害を経験している。地形的に山間部での土砂災害や沿海部での高潮・津波などの被害も想定されていることから、常日頃から、地域や学校での講習会や防災訓練等を実施し、防災意識の高揚を図り災害情報の迅速かつ的確な収集、伝達のできる体制の構築に努めている。

【第2日】

福岡県久留米市

人口：約30万5千人、面積：229.96 Km²

〈視察項目〉

セーフコミュニティ事業について

〈視察内容〉

(1) 経緯

市政運営の基本的視点の1つである「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を進めていく上で、安全・安心の取り組みをより効果的に展開していくことを目指し、WHO（世界保健機関）が推奨する国際基準の認証制度「セーフコミュニティ」の仕組みを活用。市民や地域の団体の皆さんなどと一体となって取り組むもの。

久留米市は、平成25年12月に国内で9番目、中核市や九州の自治体では初めて国際



認証を取得し、平成30年12月には再認証を取得した。

(2) 制度概要

セーフコミュニティとは、「生活の安全と安心を脅かす事故やけがは、原因を究明することで予防できる」という理念のもと、地域の実情をデータ等を用いて客観的に評価・検証し、行政・関係機関、地域住民、各種団体・組織などが連携して「安心して生活できる安全なまちづくり」に取り組むことで、国際セーフコミュニティ認証センターが認証する。

1) 重点取り組み分野・項目

各分野・項目ごとに8つの対策委員会と外傷等の発生データの収集・分析を専門に行う外傷等動向調査委員会を設置し、課題に対する効果的な取り組みについて検討を行っている。

①交通安全

- ・高齢者の交通事故防止
 - 運動能力や身体能力の変化に応じた行動
 - 明るい服や反射材着用
- ・自転車事故の防止
 - 交通安全教室
 - 安全利用キャンペーン

②子供の安全

- ・児童虐待の防止
 - 乳児家庭訪問事業の地域連携
- ・学校の安全
 - 児童主体の安全マップ作製
 - 体験型交通安全教室

③高齢者の安全

- ・転倒予防
 - 転倒予防教室
- ・高齢者虐待の防止
 - 虐待、認知症に関する学習会

④犯罪・暴力の予防

- ・犯罪の防止・防犯力の向上
 - 自転車ツーロックの呼びかけ
 - 防犯カメラ、防犯灯の設置
 - 青パトなど地域自主防犯活動の支援、連携強化
- ・DV防止・早期発見
 - 教育現場でのデートDV防止の研修
 - 正しい理解と早期発見、支援への医療関係者向け研修

【久留米市におけるセーフコミュニティの推進体制】



久留米市のけがや事故の現状

不慮の事故等における年齢層別死因順位(人口動態統計、H20～24年の5年間の累計)

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	脳死・溺水	交通事故	その他不慮の事故		
10～19歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
20～29歳	自殺	交通事故	脳死・溺水	墜・火	他殺
30～39歳	自殺	交通事故	脳死・溺水	中毒等	転倒・転落
40～49歳	自殺	交通事故	その他不慮の事故	他殺	脳死・溺水
50～59歳	自殺	交通事故	脳死・溺水	窒息	転倒・転落
60～69歳	自殺	脳死・溺水	窒息	交通事故	その他不慮の事故
70～79歳	脳死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	脳死・溺水	窒息	その他不慮の事故	転倒・転落	自殺
90歳～	転倒・転落	窒息	脳死・溺水	その他不慮の事故	交通事故
全体	自殺	脳死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

久留米市が国際認証を取得する最初のデータだよ



⑤自殺予防

- ・自殺、うつ病の予防
- ゲートキーパー研修

⑥防災

- ・地域防災力の向上
- 定期的な防災訓練、防災リーダー研修
- 災害時要配慮の個別支援計画作成

(3) 関連する予算

年 度	2015	2016	2017	2018	2019
SC 推進事業	6,970	5,867	12,786	13,924	6,118
SC 6 分野 10 項目	258,611	289,214	492,327	419,080	383,483
関連事業	1,160,728	899,000	919,968	858,902	896,721
合計	1,426,309	1,194,103	1,425,081	1,291,906	1,286,322

(千円)

(4) 今後の課題

①認知度の向上

- ・若い世代を対象とした広報・啓発活動

②取り組みの裾野拡大

- ・家庭や個人など、一人一人が実践できる取り組み拡大

③連携・協働の新たな仕組みづくり

- ・セーフコミュニティ (SC) 協議会や対策委員会以外に現在 SC 活動に参加していない団体や NPO 法人・学生などとの連携・協働

《所 感》

ケガや事故は、データの分析により予防できるとの理念により、まずは現状の細かい分析が行われ、重点的に取り組むべき分野を決めることによる具体的な施策が実施されており、特に自殺予防対策においても、その結果により「久留米方式」として注目されている。

【第3日】

大分県豊後大野市

人口：約3万5千人、面積：603.14Km²

《視察項目》

読書活動推進計画における取みについて



≪視察内容≫

(1) 「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」の概要

1) 趣旨

2001年に成立した「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、おおむね5年（2018～2022年度にわたる子供の読書活動推進に関する基本計画を具体的方策を明らかにするもの。）

2) 現状での課題

- ・小中学生の不読率は、中長期的には改善傾向にあるが、高校生の不読率は依然として高い。
- ・いずれの世代においても第3次計画で目標とした進度での改善は図られていない。

3) 分析

- ①中学校までの読書週間の形成が不十分
- ②高校生になり読書の関心度合いの低下
- ③スマートフォンの普及等により子供の読書環境への影響の可能性



4) ポイント

- ①発達段階に応じた取組により、読書習慣を形成
- ②友人同士で行う活動等を通じ、読書への関心を高める



- 家庭
 - ・ブックスタート
 - ・家読（うちどく）子供を中心に家族で同じ本を読む
- 学校等
 - ・学習指導要領を踏まえた読書活動の推進
 - ・読書習慣の形成、読書機会の確保
 - ・学校図書館の整備・充実→司書教諭・学校司書等への人的配置促進
- 地域
 - ・図書館資料、施設等の整備・充実
 - ・図書館での子供や保護者を対象とした企画・実施
 - ・司書・司書補の適正な配置
 - ・学校図書館やボランティア等との連携・協力
- ③子供の読書への関心を高める取組
 - ・読書会、図書委員、「子ども司書」、ブックトーク、ビブリオバトル
- ④民間団体の活動への支援
 - ・民間団体やボランティアの取組の周知
 - ・活動への助成（子ども夢基金）
- ⑤普及啓発活動
 - ・「子ども読書の日」（4月23日）
 - ・「文字・活字文化の日」（10月27日）
 - ・優れた取組の奨励（地方自治体・学校・図書館・民間団体・個人を表彰）

(2) 移動図書館(車)

愛称 「にじいろ号」

積載冊数 約3,500冊

巡回箇所 25か所(幼稚園・保育園・小学校など)
小学校については中休み、昼休みを利用して巡回



《所 感》

6町合併により、広範な市域を抱えることとなったことで、いかに地域間での格差を抑えることが課題とされていたが、旧町の公民館に図書館機能を持たせることや、各地を巡回できる移動図書館車を活用するなど、学校図書室の充実と合わせ、課題解消への取組が積極的に行われている。また、中心となる市立図書館の新築計画も進展しており、完成後のさらなる機能拡充による効果も期待されている。